

証券コード：9412

株式会社スカパーＪＳＡＴホールディングス



2024年3月期 第2四半期

決算説明会

2023年11月1日

将来の見通しに関する記述

本説明資料に掲載されている予想、戦略、経営方針、目標等のうち、歴史的事実でないものは、将来の見通しに関する記述であり、現在入手可能な情報にもとづく経営者の前提、計画、期待、判断などを基礎としています。

これらの将来の見通しに関する記述は、様々なリスクや不確定要因の影響を受けるため、現実の結果が想定から著しく異なる可能性があります。このようなリスクや不確定要因のうち、現在想定しうる主要なものには、以下のようなものが含まれます。なお、リスクや不確定要因はこれらに限られるものではありませんのでご留意下さい。

事業全般

- 事業投資等に関するリスク
- 事業上の法的規制に関するリスク
- 個人情報及び重要情報の流出や取扱い及びサイバーセキュリティに関するリスク
- 大規模災害、新型感染症等による事業継続に関するリスク

宇宙事業

- 衛星通信市場における競争力低下のリスク
- 通信衛星調達に関するリスク
- 通信衛星の運用に関するリスク

メディア事業

- 有料多チャンネル事業の事業性低下に関するリスク
- 不正視聴に関するリスク
- 顧客管理システムに関するリスク

業績

- 引き続き前年同期比増収増益

宇宙事業

- Superbird-9のプレセールス開始
第1弾はパナソニック アビオニクス(株)に移動体向けの帯域提供を決定
- 軌道上衛星延命サービスの調達決定。フリート計画の柔軟性が飛躍的に向上

メディア事業

- FTTH事業の提携ケーブルテレビ局が16局に拡大

ESG

- カーボンニュートラル達成・2025年度末に前倒し

株主還元

- 50億円の自己株式取得を実行中

2024年3月期 第2四半期連結業績概要

連結業績概況

- 連結業績は引き続き前年同期比増収増益
- 宇宙事業はグローバル・モバイル分野、国内衛星ビジネス分野とも引き続き堅調
- メディア事業は投資有価証券評価損がセグメント利益を押し下げ

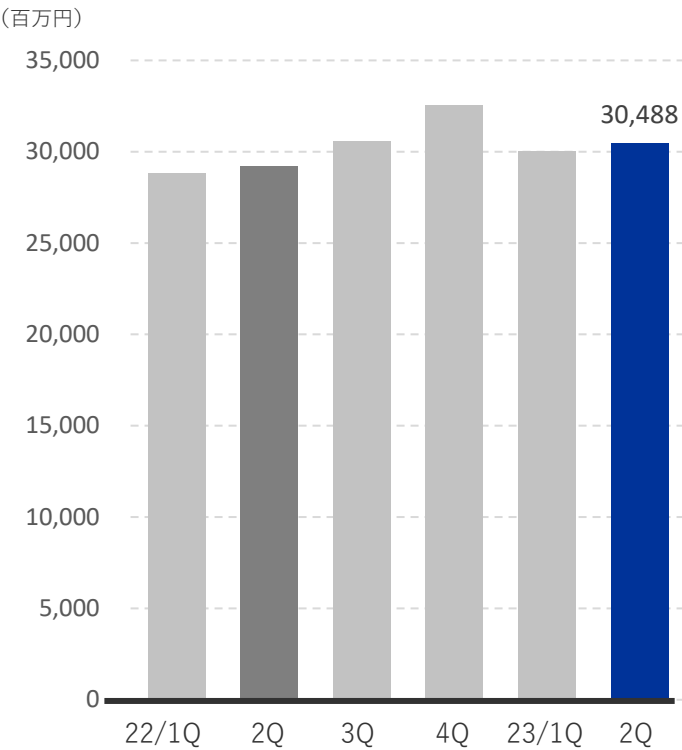
(百万円)

	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	増減率	2023年度 通期業績予想	通期予想 進捗率
営業収益	57,996	60,498	+ 4.3%	121,000	50.0%
営業利益	11,147	13,401	+ 20.2%	22,500	59.6%
経常利益	11,635	13,839	+ 18.9%	22,000	62.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	7,703	8,555	+ 11.1%	15,000	57.0%
EBITDA *	22,613	23,681	+ 4.7%	43,600	54.3%

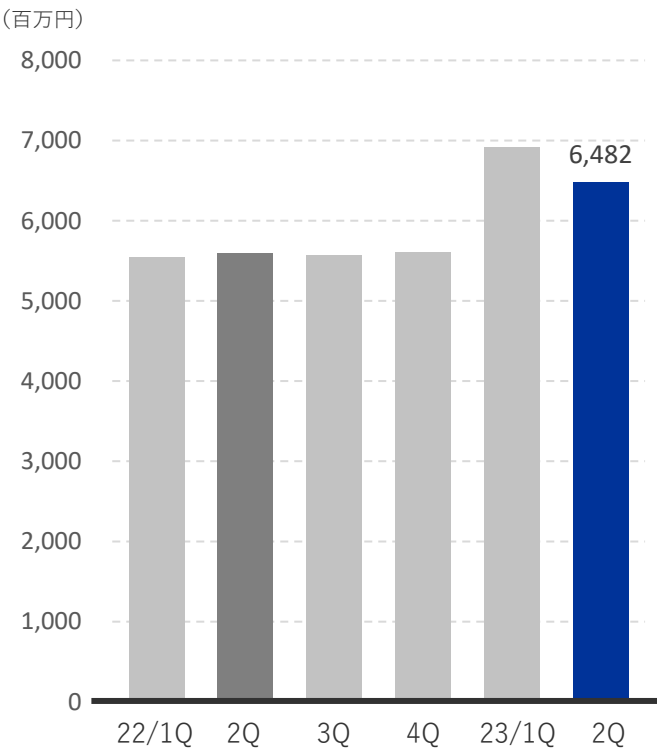
* EBITDA = 純利益 + 税金費用 + 減価償却費 + のれん償却費 + 支払利息

四半期連結業績推移（FY2022/1Q – FY2023/2Q）

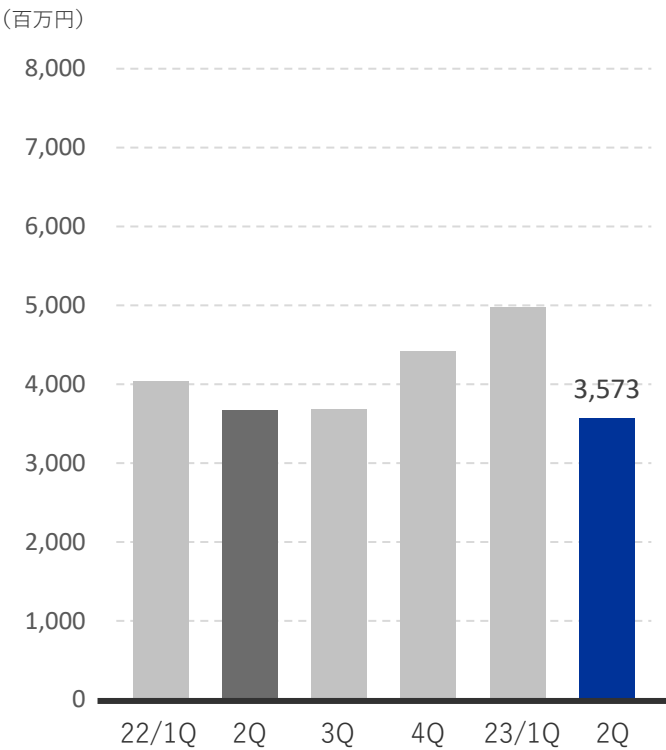
営業収益



営業利益



四半期純利益



セグメント別業績概況：宇宙事業



- JCSAT-1C、Horizons 3eの利用拡大と国内における回線利用、機器販売等の拡大が継続
- 増収と減価償却費の減少等により前年同期比増益

営業収益

(百万円)

営業利益

(百万円)

セグメント利益*

(百万円)

28,161

31,038

8,336

11,103

5,576

7,689

2022年度
2Q累計

2023年度
2Q累計

2022年度
2Q累計

2023年度
2Q累計

2022年度
2Q累計

2023年度
2Q累計

主な増減要因（前年同期比）

- 営業収益 310億円（+29億円）**
 - ・ グローバル・モバイル分野の増加：+15億円
 - ・ 国内衛星ビジネス分野の増加：+14億円
 - ・ 放送トラポン収入の減少：△3億円
- 営業費用 199億円（+1億円）**
 - ・ 減価償却費の減少：△6億円
 - ・ 衛星事業原価等の増加：+7億円
- 営業利益 111億円（+28億円）
- セグメント利益 77億円（+21億円）

* セグメント利益は「純利益」ベースの数値

** セグメント間の内部取引を含む

セグメント別業績概況：メディア事業



- 放送の減収も、既存事業の収支改善とFTTH事業収入増で減益幅縮小
- 投資有価証券評価損の計上がセグメント利益を押し下げ

営業収益

(百万円)

34,804

34,230

2022年度
2Q累計

2023年度
2Q累計

営業利益

(百万円)

3,145

2,684

2022年度
2Q累計

2023年度
2Q累計

セグメント利益*

(百万円)

2,272

1,079

2022年度
2Q累計

2023年度
2Q累計

主な増減要因（前年同期比）

- **営業収益 342億円（△6億円）****
 - ・ 視聴料・業務手数料・基本料収入の減少：△13億円
 - ・ FTTH事業収入の増加：+1億円
 - ・ リアルイベント関連：+6億円
- **営業費用 315億円（△1億円）****
 - ・ コンテンツ費の減少：△1億円
 - ・ 減価償却費の減少：△1億円
 - ・ 衛星回線料等の減少：△5億円
 - ・ リアルイベント関連：+6億円
- **営業利益 27億円（△5億円）**
- **セグメント利益 11億円（△12億円）**
 - ・ 投資有価証券評価損：△8億円

* セグメント利益は「純利益」ベースの数値

** セグメント間の内部取引を含む

2030年に向けて

新領域に2,000億円以上の投資を予定

SPACE

新技術の活用と
事業領域拡大

1,500億円
以上

既存
衛星通信



Universal NTN

光データ中継

ビジネスインテリジェンス

2030年セグメント利益目標 210億円

MEDIA

映像体験を超える
新領域への進出

500億円
以上

衛星放送
/FTTH



コネクテッドTV

メディアソリューション

コンテンツデータベース

リアルサービス

2030年セグメント利益目標 50億円

サステナブルな成長

2030年に当期純利益250億円超を目指す

社会と会社の持続的な成長を目指す

ミッション

サステナビリティ方針

Space for your Smile

経済的価値

2030年目標 当期純利益 250億円超

社会的価値

社会の安心・安全を守り、
ワクワクする未来の創造に貢献する

事業ビジョン

宇宙事業

すべての空間を対象とした革新的な通信ネットワーク
及び地球規模のデータ収集ネットワークを構築し
超スマート社会の実現に貢献

メディア事業

人と人、企業、社会をつなぐプラットフォームとして
多様で創造性豊かな社会の実現に貢献

経営戦略

“変革”による価値の創出

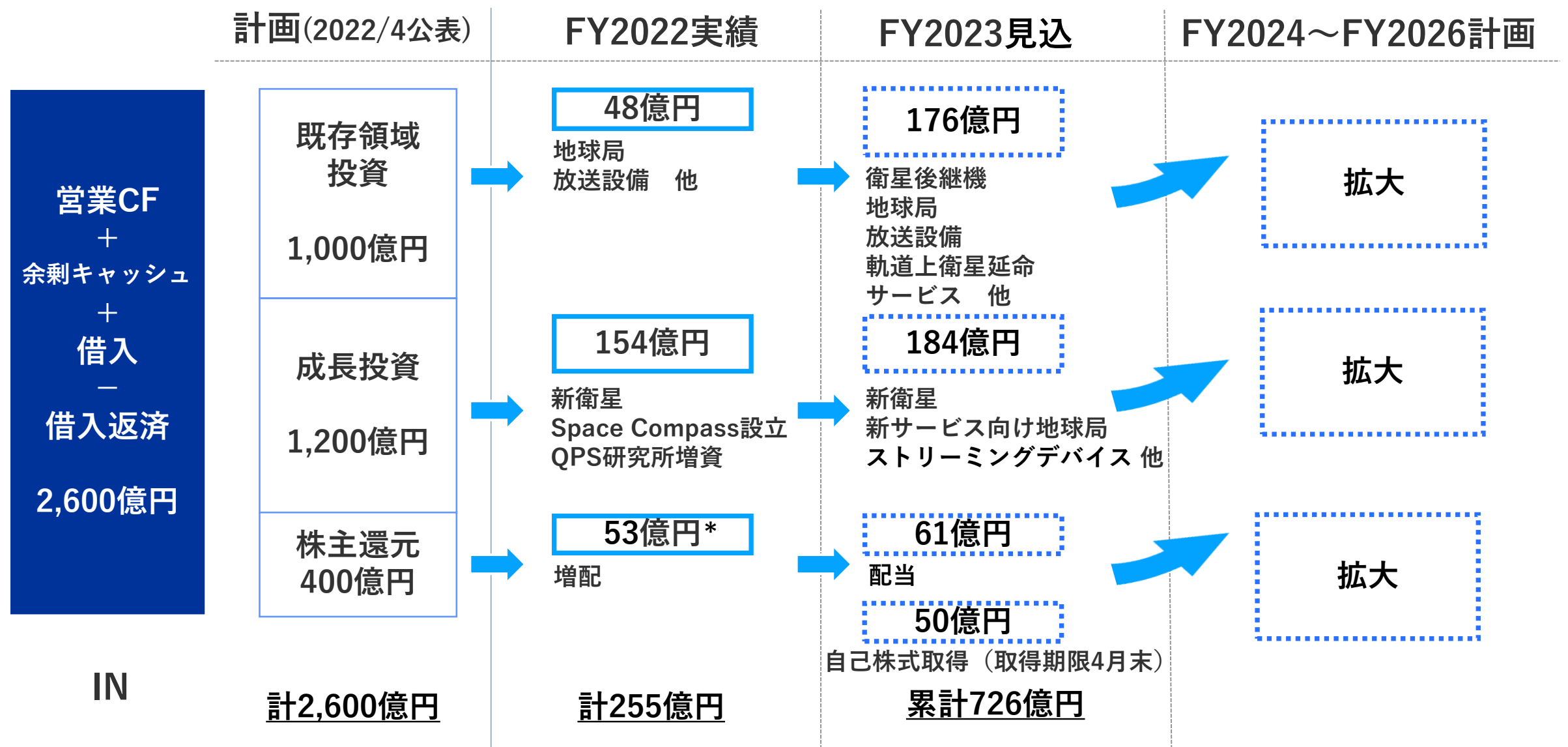
新領域事業の展開

既存事業の
収益性強化

人的資本強化

経営基盤拡充

キャピタルアロケーションの進捗（FY2022～FY2026）



*2023年4月28日公表のキャピタルアロケーションの進捗においては58億円と
していましたが、決定ベースの金額でしたので、支払ベースに修正しています。

すべての空間を対象とした革新的な通信ネットワーク及び地球規模のデータ収集ネットワークを構築し、超スマート社会の実現に貢献する。



2030年セグメント
利益目標

210億円

安全保障

防災

スマート
シティ

スマート
農業

自動運転

その他
第1-3産業

政府

自治体

建設

農業

運輸

医療

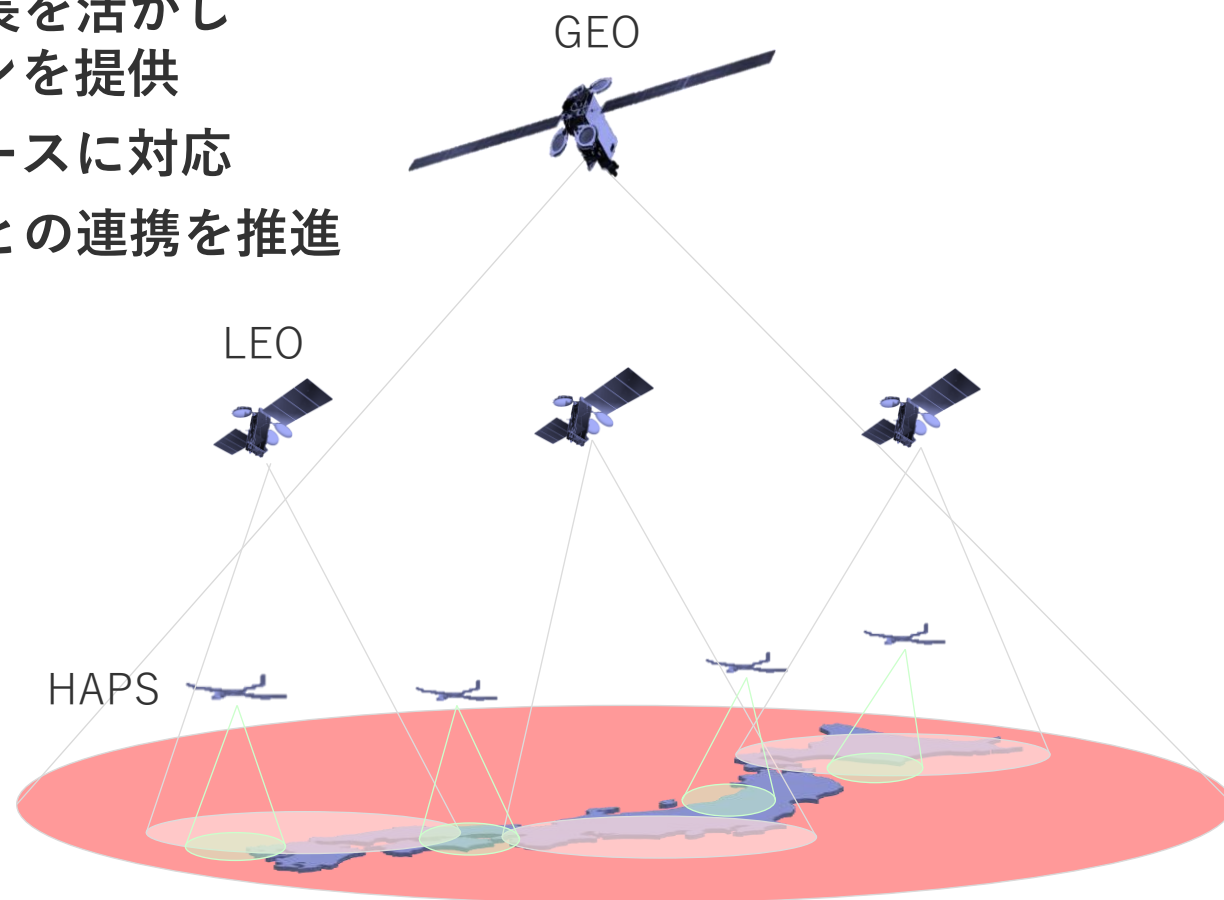
低軌道衛星によるブロードバンドサービス 『Starlink Business』提供開始を決定

- 衛星通信サービスのラインナップを拡大
- 高速・低遅延のブロードバンドインターネットサービスの提供により、お客様の利便性を向上
- 本サービス拡販のため、（株）NTTドコモとNTTコミュニケーションズ（株）を通じたサービス提供も予定



- GEOに、LEO、HAPSを加え、それぞれの特長を活かしお客様にシームレス且つ最適なソリューションを提供
- 自動運転や空飛ぶクルマなど新たなユースケースに対応
- LEO衛星事業者をはじめ、様々なパートナーとの連携を推進

NTN (Non-Terrestrial Network) : 非地上系ネットワーク
GEO (Geostationary Orbit Satellite) : 静止軌道衛星
LEO (Low Earth Orbit Satellite) : 低軌道衛星
HAPS (High Altitude Platform Station) : 高高度プラットフォーム



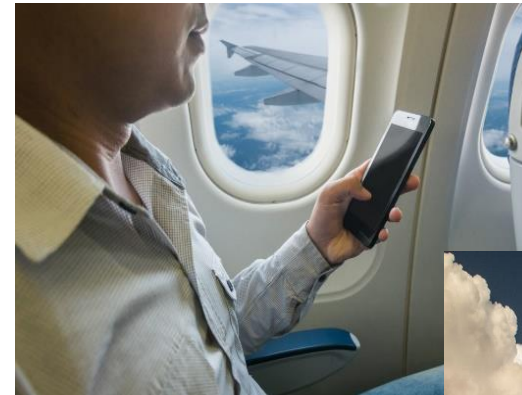
フルデジタル衛星Superbird-9による 航空機向け大容量帯域のインターネット回線提供へ

- パナソニック アビオニクス（株）と契約締結
- 打ち上げ前の契約獲得により、早期収益化を実現
- フルデジタル衛星によりGbpsクラスの通信容量とより柔軟な衛星カバーエリアを実現



Superbird-9のイメージ写真

(C)AIRBUS



宇宙統合コンピューティング・ネットワークの実現に向けて

国際宇宙ステーション日本実験棟「きぼう」後継機
通信・軌道上データ処理事業検討により新たな価値を創出



宇宙データセンタ事業の
実現に向けた
取り組みを加速

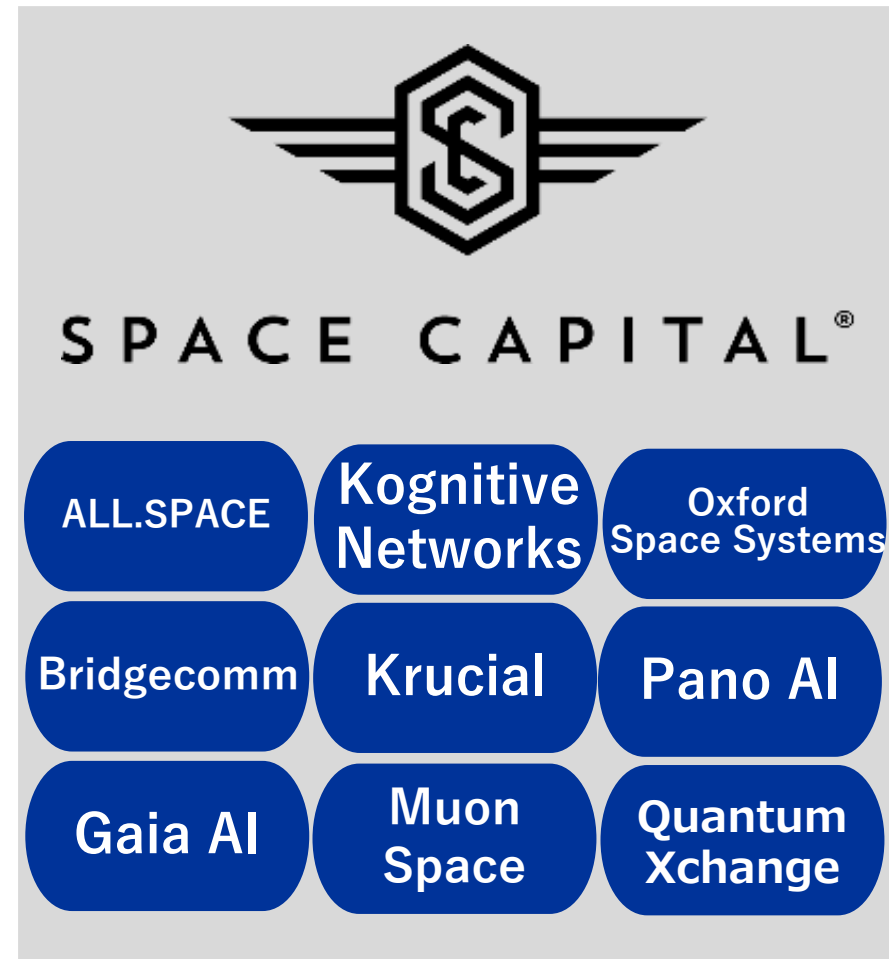
- ① 「きぼう」後継機-地上局間の光通信事業
- ② 「きぼう」後継機内におけるデータセンタ事業

宇宙スタートアップとの協業推進

- 2018年3月および2023年9月、
米国ファンドSpace Capitalに投資
- 国内外宇宙スタートアップ、ファンドへの投資・協業を推進

新規事業開発の推進力を高める組織体制

- 2023年10月、「投資・協業促進プロジェクト」発足
- 組織の垣根を超えた活動により、新領域事業の展開を加速



Space Capitalポートフォリオ企業（一部抜粋）

Horizons-4 打ち上げ成功

- 2023年10月サービスイン
- 北米・太平洋地域の通信需要増加に対応

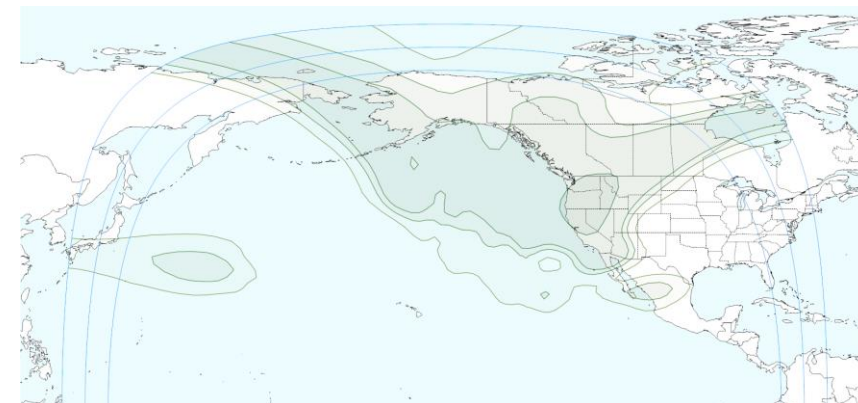
Horizons-1※ 北東太平洋エリア向けサービス提供へ

- 西経150度へ軌道位置変更、2029年末頃まで運用予定
- 移動体向け通信需要に対応

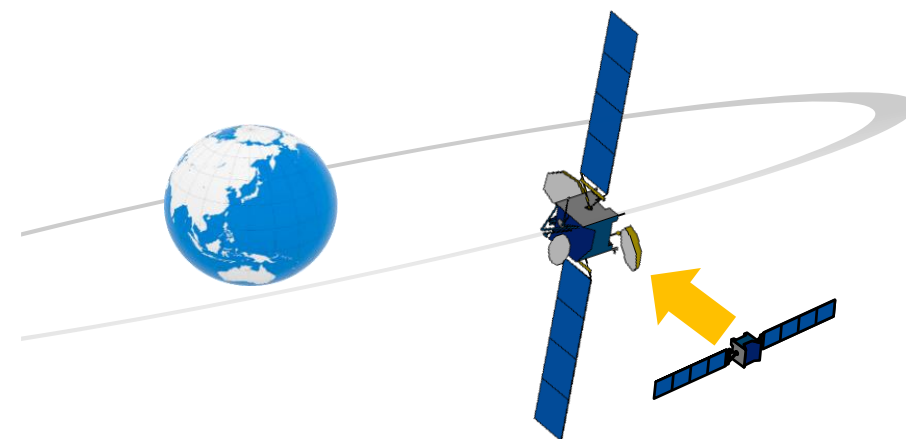
※2003年10月1日（日本時間）打ち上げ

軌道上衛星延命サービスの調達を決定

- 軌道上衛星延命サービスの活用により、フリート計画の柔軟性が飛躍的に向上
- この他にも、新たな宇宙技術の採用を積極検討



Horizons-1のカバーエリア



軌道上衛星延命サービスのイメージ図

北米上空からインド洋上空まで 計17機 の衛星を保有

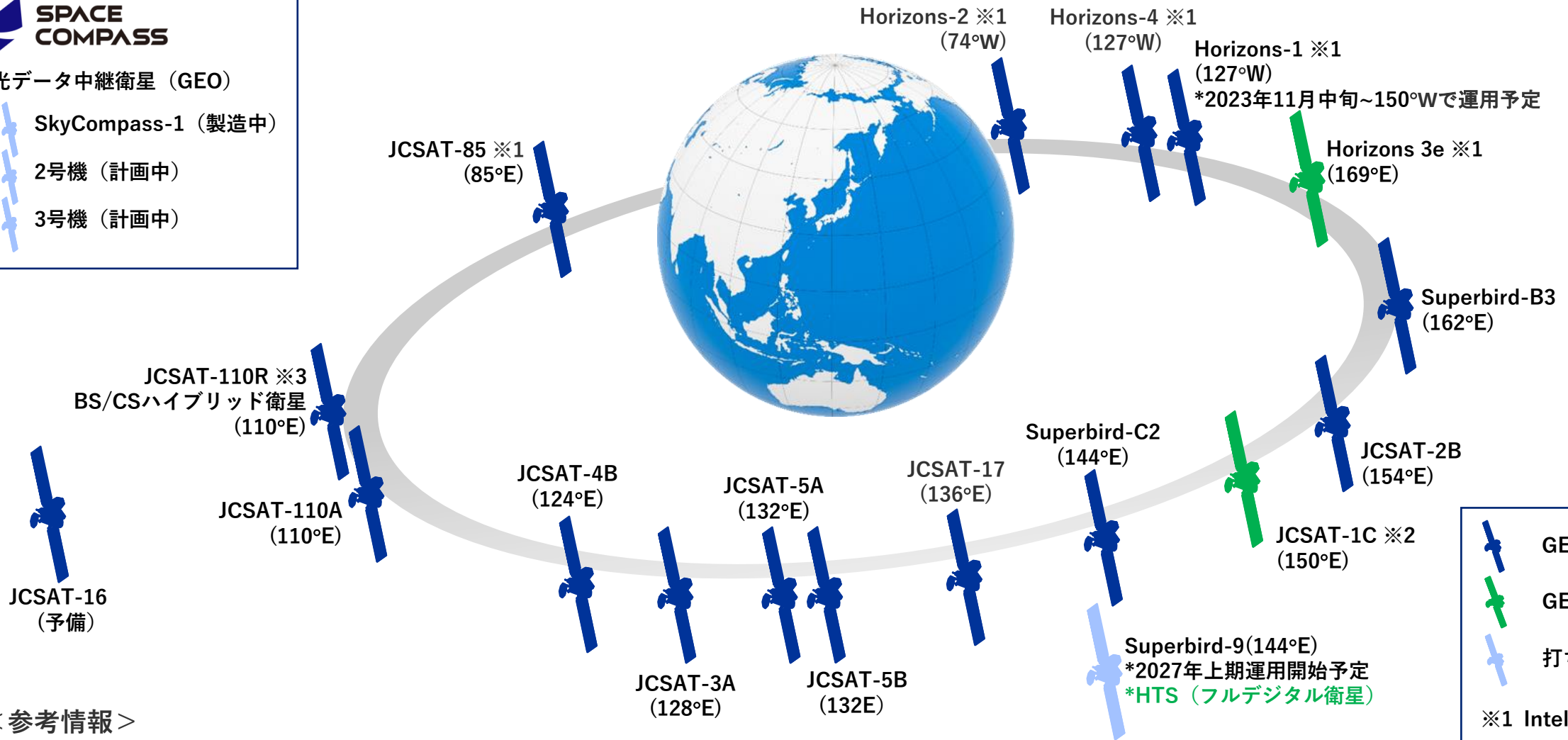


光データ中継衛星（GEO）

SkyCompass-1（製造中）

2号機（計画中）

3号機（計画中）



GEO：静止衛星
 GEO（HTS）
 打ち上げ予定

※1 Intelsat社との共同衛星
 ※2 Kacific社との共同衛星
 ※3 BSAT社との共同衛星

< 参考情報 >

- ・2023年3月末時点の契約バックログは2,309億円
- ・運用中衛星の平均機齢：約10年
設計寿命：約15年

メディア事業ビジョン

人と人、企業、社会をつなぐプラットフォームとして
多様で創造性豊かな社会の実現に貢献する

「放送＋配信＋リアル」でファンの体験を拡張

コネクテッドTV

ドングル／広告PF構築

多チャンネル／基幹商品／ライブ・録画

放送

ライブ・VOD
ニッチジャンル

配信

イベント
グッズ／ツアー

リアル

リアル体験

ファンの体験

2030年
セグメント
利益目標

50億円

FTTH再送信

コールセンター

東京メディアセンター

事業基盤

メディア
ソリューション

メディア
HUBクラウド

コンテンツ
データベース

FTTHパススルー事業（2022年11月より開始） 提携ケーブルテレビ事業者を拡大

MEDIA

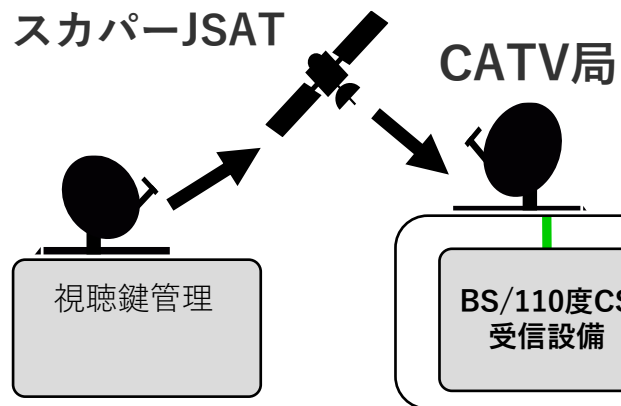
FTTH

衛星通信と視聴鍵信号管理技術を使ってケーブルテレビ事業者の課題を解決

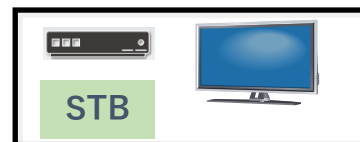
- ケーブルテレビ統括運営会社 株式会社C C J（三重県四日市市）と協議合意
- 2023年10月現在 サービス開始済8局、サービス開始前8局、合計16局
- 16局の総接続世帯数合計 約44万世帯 ※出典：ケーブル年鑑2023

【サービスイメージ】

スカパーJSAT



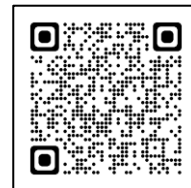
従来



<主な導入メリット>

- ・ ACAS対応への設備投資コスト削減
- ・ お客様宅のSTB不要
- ・ 多チャンネル放送サービス継続 等

<サービスの詳細はこちら>



視聴制御機能提供



収入)

- ・ 登録料（初回）
- ・ 鍵管理手数料（月額）

ケーブルテレビ事業者とは、スカパー！番組配信の普及促進や、CTV(ドングル)戦略等、更なるアライアンス強化を目指す。

マンション向けFTTH再送信の導入

つなぐネットと共に、森ビルが推進する「麻布台ヒルズ」において
上下最大 10Gbps の超高速インターネットと光回線テレビを導入

【サービス提供イメージ】

つなぐネット

各住戸まで上下最大10Gbps
インターネットサービス

スカパーJSAT

テレビ視聴サービス
(光回線テレビ)

光ファイバー
ケーブル

「麻布台ヒルズ」
各街区の住居

【麻布台ヒルズ外観】

麻布台ヒルズ森JPタワー、麻布台ヒルズレジデンス等計：1,412戸



光再送信サービス 接続世帯数累計 2,688,469世帯 (9月末時点)

スカパー！の新しい#テレビだけじゃない 取り組み



- ✓ ブロックチェーン技術を活用し、リアルイベントを盛り上げる投票サービス・ファンサービスを提供
- ✓ 本年、トライアルとして、アイドルイベントでのサービス提供を実施

当社が取り組む意義

- 放送事業者やクリエイター・IPホルダーとの連携を活かし、web3関連の新しいサービスを創出
- プラットフォーマー/インフラ事業者としての中立的立場を活かし、幅広い事業者と共に市場を開拓

トライアルを重ね、ファンの体験を拡張していく。

スカパー / 秋口施策「熱狂フェス」実施中（10月～11月）

放送/配信

リアル

- ・ 放送 + 配信(番組配信・SPOOX) + イベント + グッズで多角的に展開



ケツメイシ KTM リクエストライブ
【ケツメ兄さん達と一緒に歌おう2023】
～日テレプラス版～（放送/番組配信）



<独占生中継>
モーニング娘。'23コンサートツアー秋
「Neverending Shine Show」 譜久村聖卒業スペシャル
（放送/番組配信）



真中満が行く! ～11.8伝説ライブin渋谷～
（放送/番組配信/イベント/グッズ）



TOKYO BB～カブで行く! 韓国 釜山男旅SP!!～
（放送/番組配信/SPOOX/イベント/グッズ）

この冬、スポーツコンテンツを無料でお届け

放送/配信

リアル

無料でお楽しみいただける、野球・サッカーのコンテンツを提供



11月29日～12月1日 全国元高校野球児 野球大会
「あの夏を取り戻せ 2020-2023」
(放送*/番組配信/プロ野球セットアプリ)

*11/29 開会式・イベント・試合のみ放送



12月17日 中村俊輔氏 引退試合
「SHUNSUKE NAKAMURA FAREWELL MATCH」
(放送/番組配信/スカパー！SOCCERアプリ)

4 Kチャンネル放送終了

スカパー・エンターテイメントが提供する4 Kチャンネル放送（9ch）を2024年3月末終了

- 今期の連結業績への影響は軽微
- CS左旋における空き帯域については、離島を多く抱える地域や中山間地域、受信障害地域といった条件不利地域における地上波の代替としての活用検討を進めていく

【対象チャンネル】

J SPORTS 1、2、3、4（4 K）（CS821/822/823/824）、日本映画＋時代劇 4 K（CS880）、
スターチャンネル 4 K（CS881）、スカチャン1 4 K、スカチャン2 4 K（CS882/CS883）

※プレミアムサービス：スカチャン1 4 K含む

なお、ハイビジョン（2 K）で提供しているチャンネルは、2024年4月1日以降も、
これまでと変わらずご視聴いただけます。WOWOW 4 K（BS191）については、ご視聴いただけます。

ESGの推進状況

■ 2025年度末カーボンニュートラル達成を宣言（2023年11月） E

- Scope1、Scope2のカーボンニュートラルの達成を、2030年から前倒し
- 通信・メディア業界内においても一際早期に目標達成を目指す

■ 国際標準・各種枠組みに準じた人権方針策定（2023年10月） S G

■ サプライヤー サステナビリティ ガイドライン策定（2023年11月） E S G

■ 非財務情報の開示拡大

E S G

統合報告書2023発行

- ビジネスモデルページ刷新
- 社外取締役・監査役対談



https://www.skyperfectjsat.space/ir/library/jsat_report/
HOME>株主・投資家情報>IRライブラリ>統合報告書

サステナビリティサイトリニューアル

- ESGデータ充実
- 社員の取り組み



<https://www.skyperfectjsat.space/sustainability/>
HOME>サステナビリティ

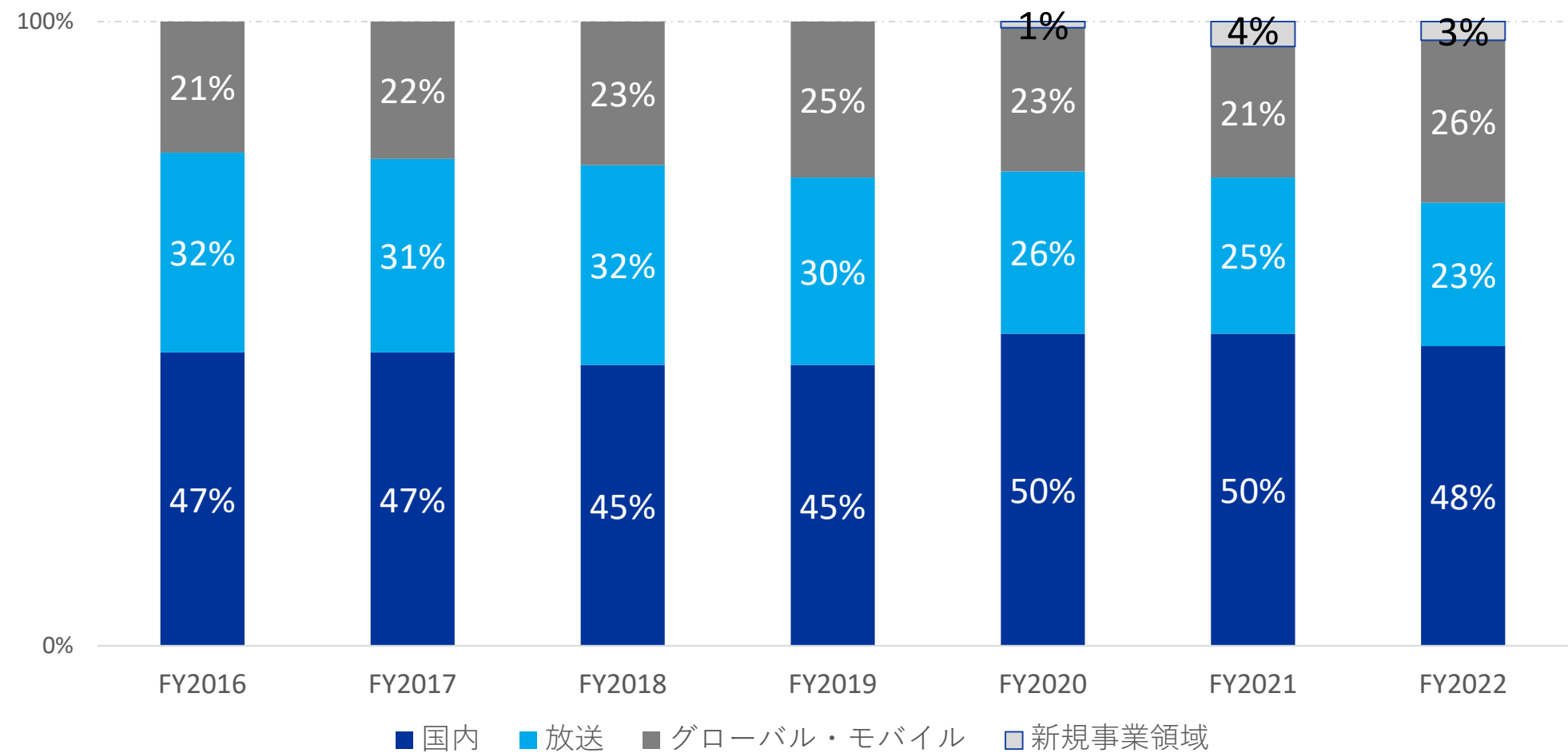
未知の大陸、生物、物質。
進化の歴史とは、未知との遭遇の歴史だ。
未知へひとたび飛びこめば、
想像をこえた景色が広がっている。
好奇心にあふれた仲間が集まる。
努力を、努力と忘れてしまう場所。
私たちが魅入られた未知は、宇宙。
誰かを笑顔にする、誰かの安全を守る、
新たな価値を見出してきた。
そしてまだ1%も探れていない。
残りの99%、
この地上から宇宙へ広がる空間で、
世界が驚くビジネスを。
見たこともないエンターテインメントを。
人工衛星たちと共に。

未知を、 価値に。

宇宙実業社
スカパーJSAT

参考資料

宇宙事業 営業収益構成比



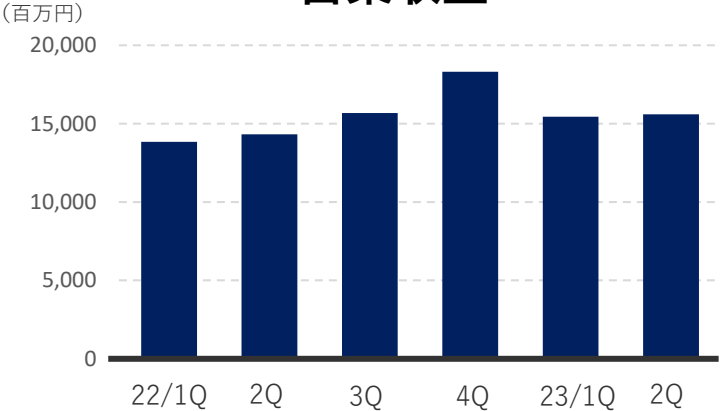
※2016年度、2018年度の防衛省向け通信衛星売却の影響を除く
※2021年度から収益認識に関する会計基準等を適用
※2021年度の構成比は、画像販売収入の一部を国内から新規事業領域に組み替えて再計算

セグメント別四半期業績(2022/1Q - 2023/2Q)

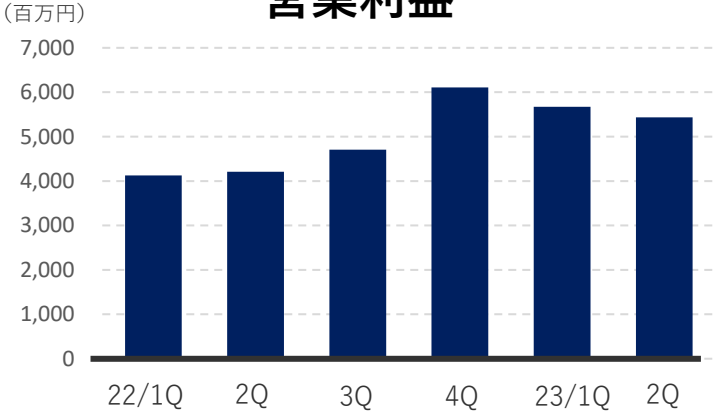
* 各数値はセグメント間の内部取引を含む。

宇宙事業

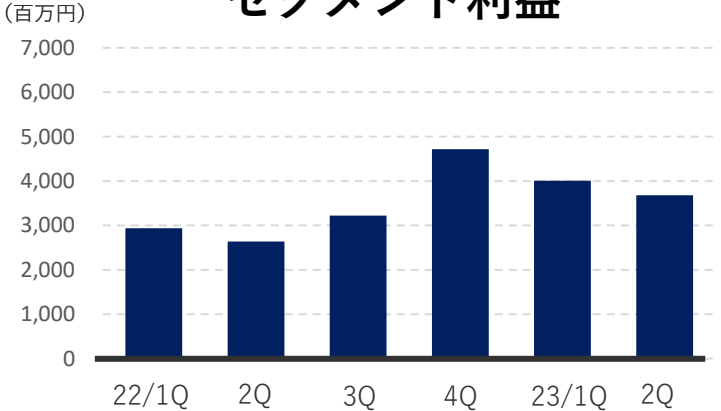
営業収益



営業利益

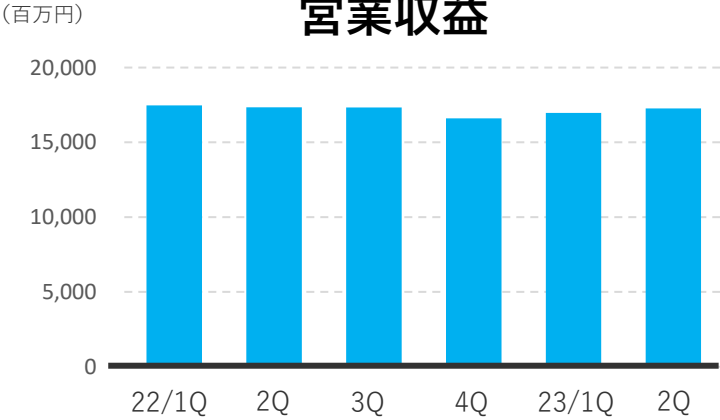


セグメント利益

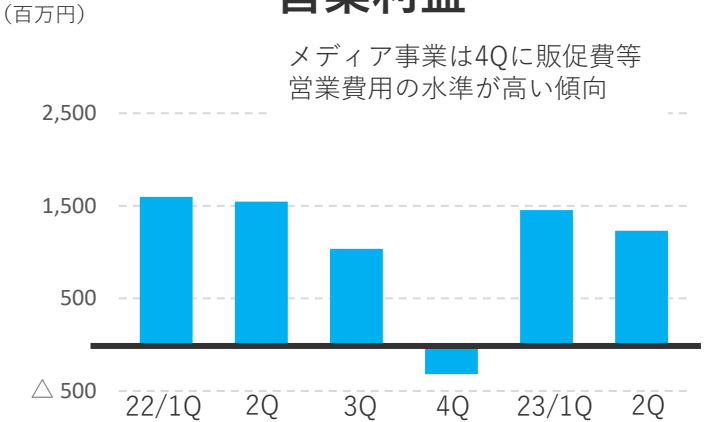


メディア事業

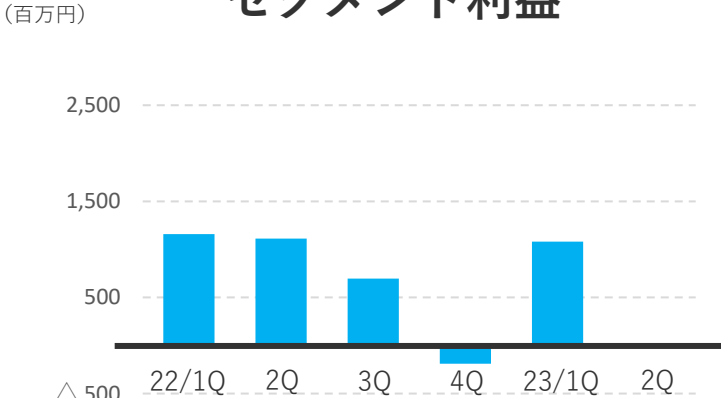
営業収益



営業利益



セグメント利益



セグメント別四半期業績(2022/1Q - 2023/2Q)

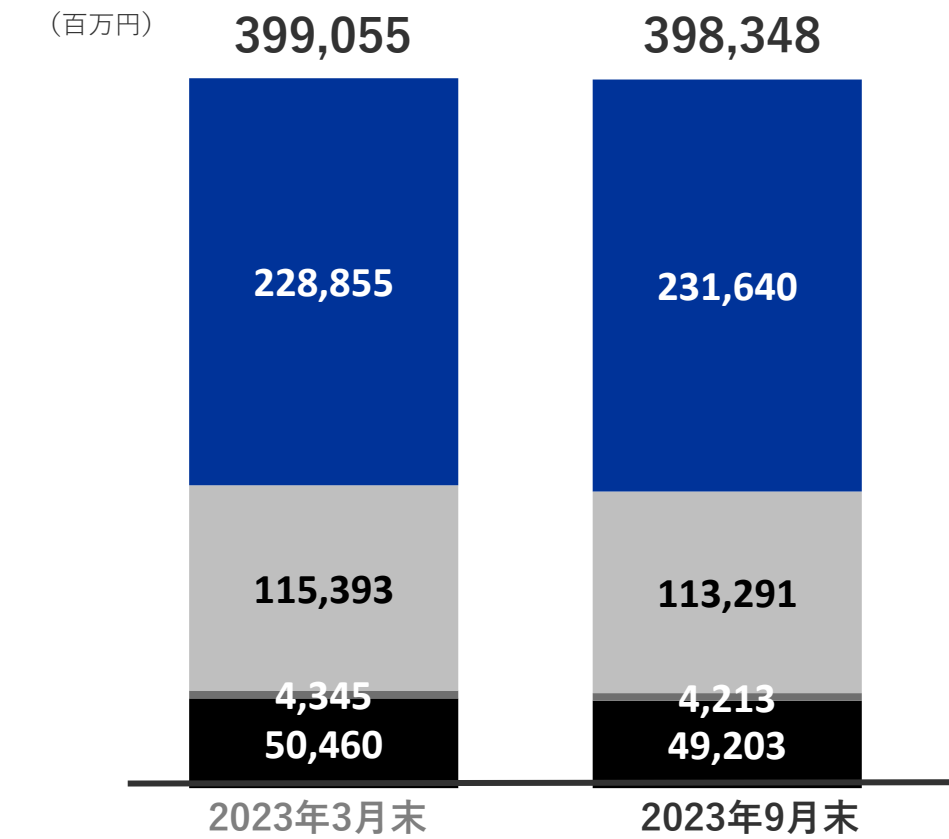
対前年同四半期比較

(百万円)

	2022年度					2023年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q
営業収益	28,806	29,190	30,597	32,545	121,139	30,009	30,488
宇宙事業	13,841	14,319	15,677	18,314	62,154	15,445	15,593
メディア事業	17,463	17,340	17,326	16,601	68,733	16,965	17,265
消去又は全社	△2,499	△2,470	△2,406	△2,370	△9,747	△2,401	△2,370
営業利益	5,551	5,595	5,566	5,609	22,324	6,919	6,482
宇宙事業	4,128	4,208	4,708	6,106	19,151	5,670	5,433
メディア事業	1,598	1,546	1,036	△318	3,863	1,453	1,231
消去又は全社	△175	△158	△178	△177	△690	△203	△181
セグメント利益 (親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純利益)	4,033	3,669	3,683	4,423	15,810	4,982	3,573
宇宙事業	2,938	2,637	3,221	4,717	13,515	4,008	3,680
メディア事業	1,159	1,113	696	△189	2,779	1,081	△1
消去又は全社	△64	△81	△234	△104	△484	△107	△105

連結貸借対照表

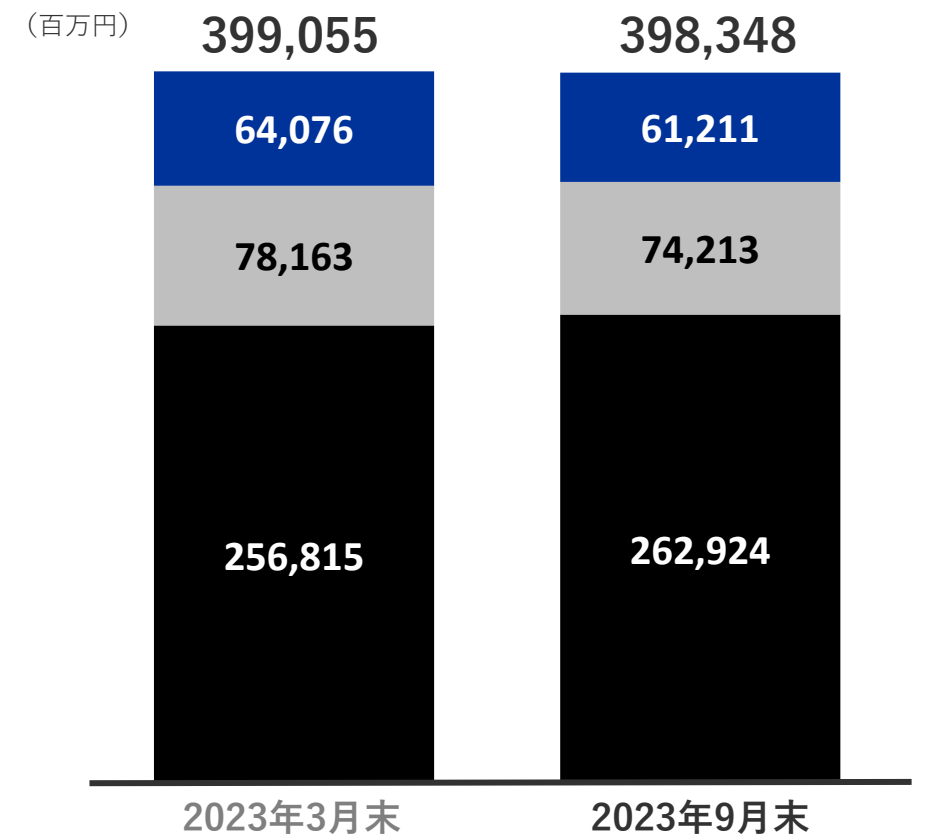
資 産



流動資産 有形固定資産 無形固定資産 投資その他資産

負債・純資産

自己資本比率： 64.0% ➡ 65.6%



流動負債 固定負債 純資産

連結キャッシュ・フロー

(百万円)

	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	32,290	16,183
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,018	△3,797
フリー・キャッシュフロー (*1)	24,272	12,385
財務活動によるキャッシュ・フロー	△11,921	△9,512
現金及び現金同等物の四半期末残高(a)	99,187	111,415
有利子負債四半期末残高 (*2) (b)	79,924	70,773
純有利子負債四半期末残高 (b)－(a)	△19,263	△40,642

*1. 営業活動によるキャッシュフロー＋投資活動によるキャッシュフロー

*2. 借入金＋無担保社債

子会社業績

(百万円)

		SJC	SPCC	SPET	SPBC	JII	JMC
事業内容		放送プラットフォーム、 衛星通信	有料多チャンネル 放送等のカスタマー センター運営	衛星基幹放送業務、 衛星一般放送業務 等	コンテンツ企画・制作、 技術支援及び番組供給 事業等	北米・ロシア・ アジア太平洋での 衛星回線販売事業	移動体衛星通信 サービス事業
保有割合（％）		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	53.3
営業収益	FY2022/2Q	55,195	2,901	7,260	675	2,455	2,125
	FY2023/2Q	56,903	2,859	6,634	541	3,114	2,446
営業利益	FY2022/2Q	10,211	186	199	120	527	383
	FY2023/2Q	11,685	202	143	109	1,164	453
経常利益	FY2022/2Q	10,948	185	202	124	668	460
	FY2023/2Q	12,448	201	145	110	1,224	506

SJC：スカパーJSAT株式会社
SPCC：株式会社スカパー・カスタマーリレーションズ
SPET：株式会社スカパー・エンターテイメント
SPBC：株式会社スカパー・ブロードキャスティング

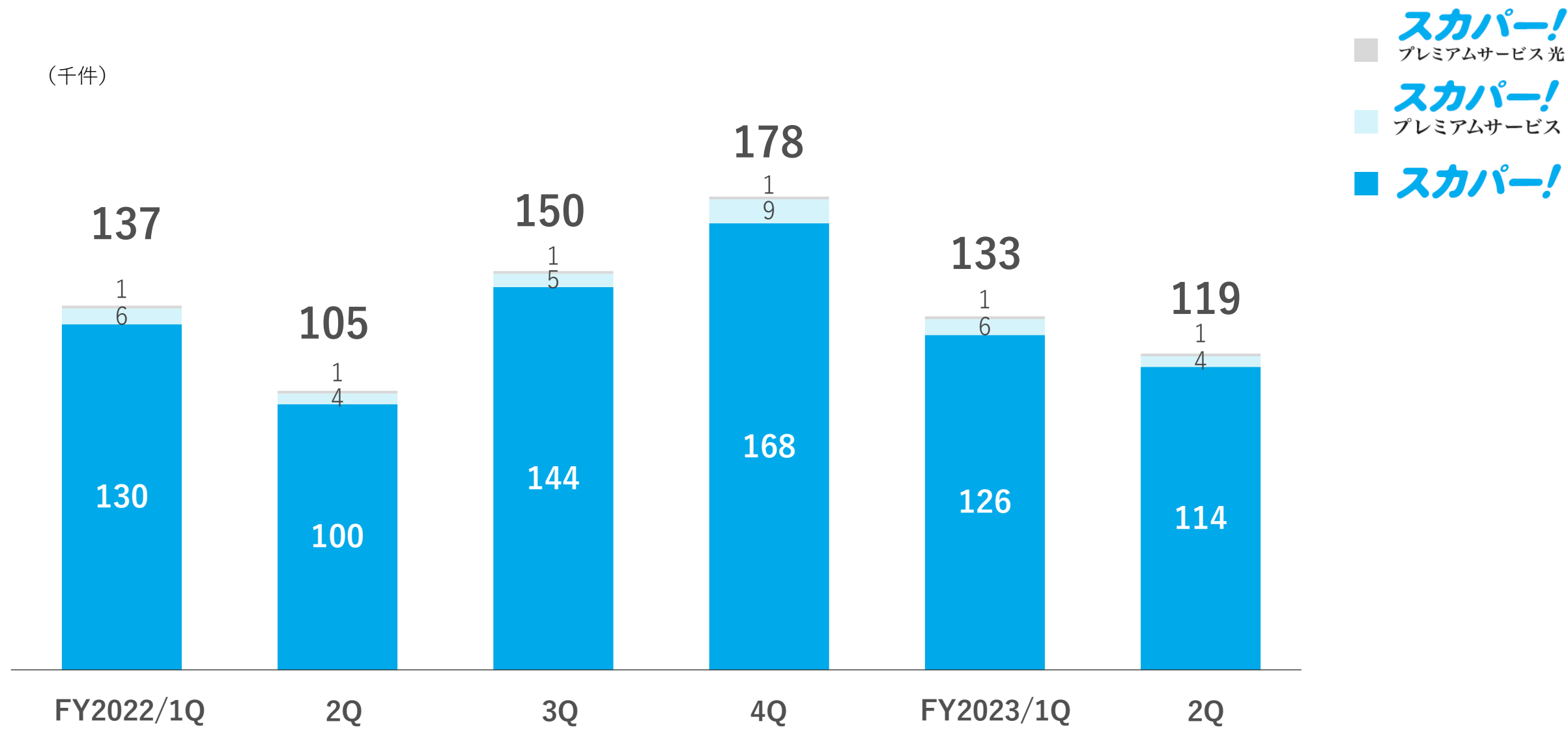
JII：JSAT International Inc.
JMC：JSAT MOBILE Communications株式会社

主要指標（メディア事業）

	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	2023年度 加入目標
新規（IC数：万件）	24.2	25.2	56.4
純増数（IC数：万件）	△8.7	△4.9	△13.3
（スカパー！）	(△5.0)	(△1.9)	(△5.4)
（スカパー！プレミアムサービス）	(△3.4)	(△2.8)	(△7.5)
（スカパー！プレミアムサービス光）	(△0.2)	(△0.2)	(△0.4)
累計加入件数（IC数：万件）	292.2	282.6	274.2
累計契約者数（契約者数：万件）	230.8	221.4	212.6
光再送信サービス接続世帯数（万件）	258.3	268.8	273.5
契約者月額支払単価（円）			
スカパー！	3,351	3,362	—
スカパー！プレミアムサービス	3,561	3,531	
スカパー！プレミアムサービス光	5,078	5,009	

新規加入件数の推移（IC数）

(千件)

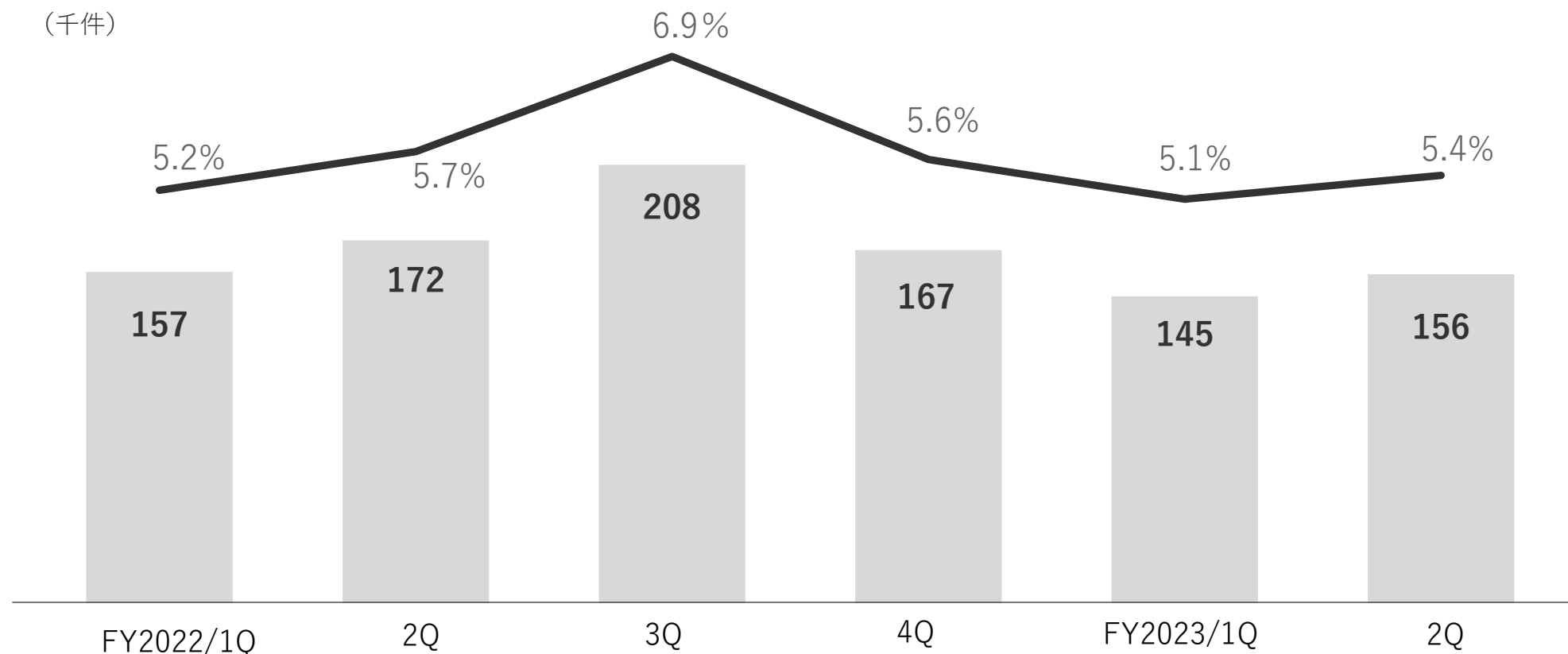


解約率の推移（IC数）

— 解約率 *（四半期毎）

■ 解約件数（千件）

注：すべてスカパー！合計



* 各四半期の解約件数合計を前年度末の累計加入件数で除した率を表示しております。

契約者支払単価^{*1}

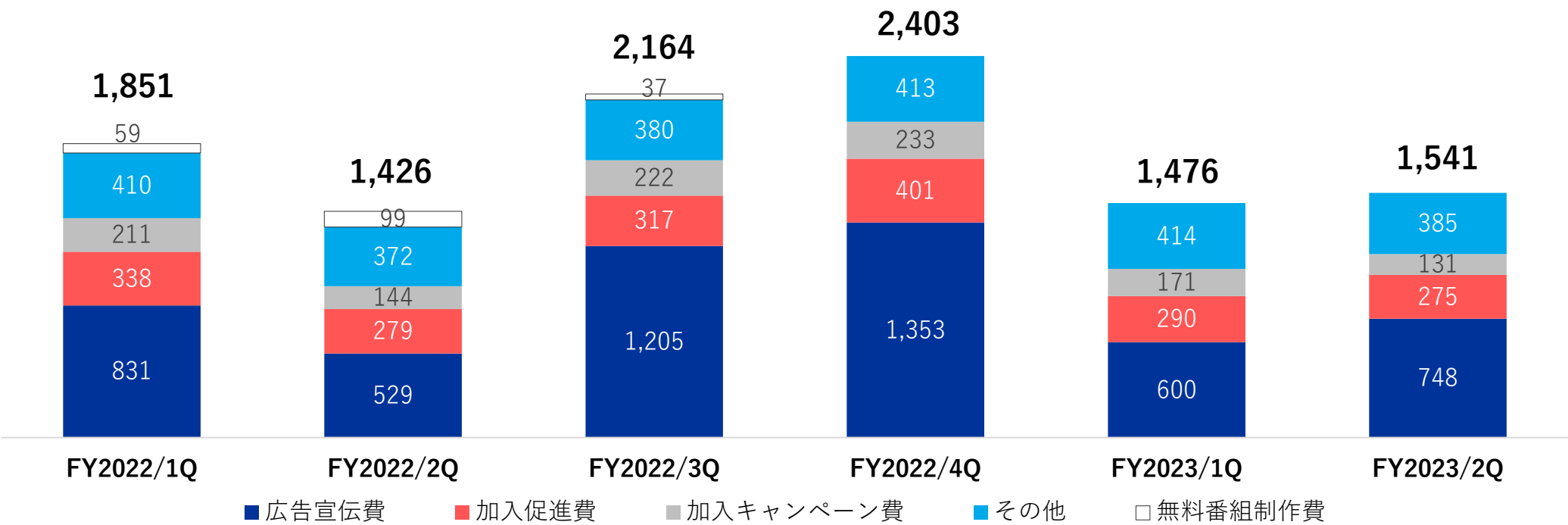


^{*1} 契約者が支払う月額視聴料等の平均単価。月額単価は「契約者」単位で算出しております。
契約者が支払う視聴料のうち、スカパー！では約30%を業務手数料、スカパー！プレミアムサービス、およびスカパー！プレミアムサービス光では、番組供給料を控除した約50%を視聴料収入として収益認識しております。

^{*2} 基本料及びセットトップボックスレンタル料。

顧客獲得費用総額（SAC）

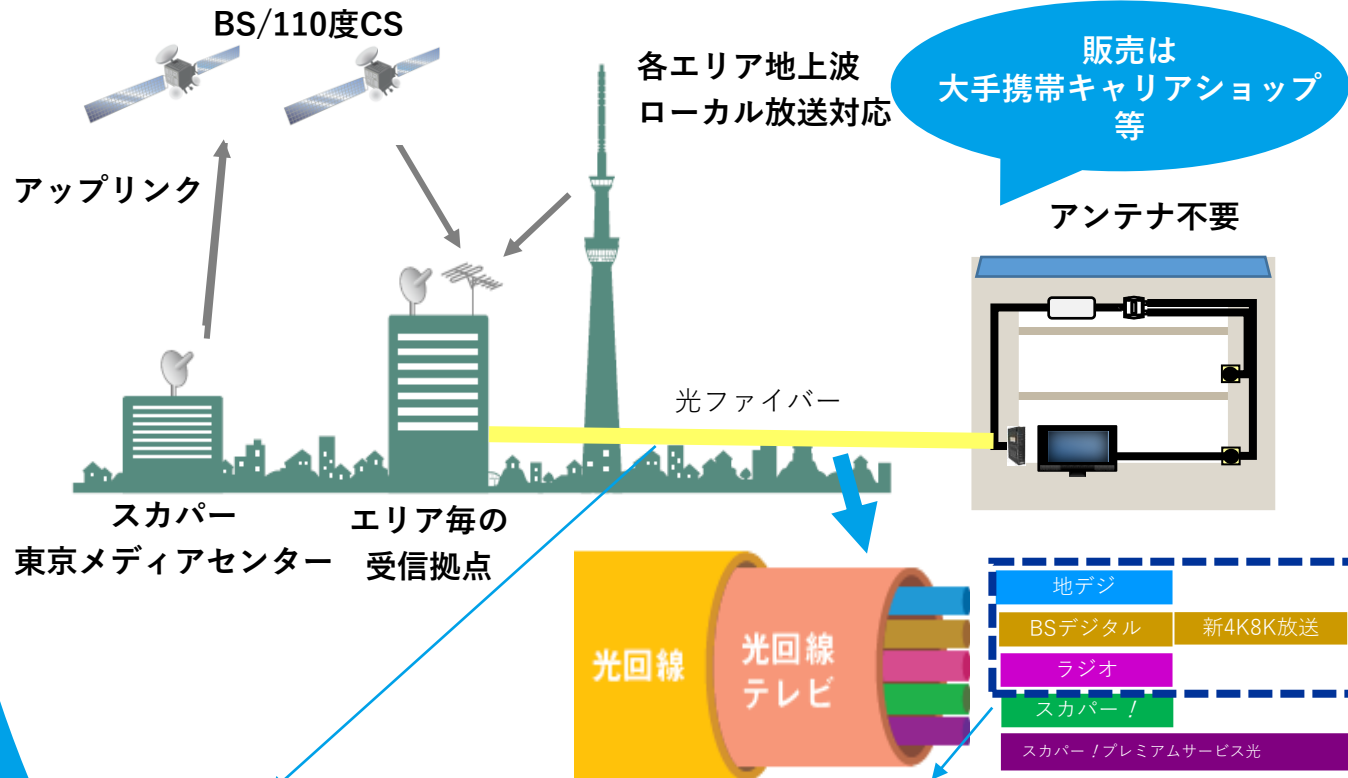
（百万円）



- 広告宣伝費：各種媒体での広告宣伝費用
- 加入促進費：スカパー！加入促進のための費用(パンフレットや会場販促)、販売インセンティブ
- 加入キャンペーン費：新規加入キャンペーン費用(アンテナサポート等)
- その他：加入獲得にかかるカスタマーセンター運営費用等
- 無料番組制作費：BSスカパー！等の番組制作費用（22年10月末閉局のため、以降は発生なし）

FTTH事業(光再送信サービス)の仕組み

- ・戸建・マンション向けに光回線サービス上で地上波・BS・CS放送等を再送信
- ・提供エリアは世帯カバー率76%まで順調に拡大



- 提供可能世帯数：約4,280万世帯（37都道府県）
- 世帯カバー率：約76%＊（対47都道府県総世帯数）

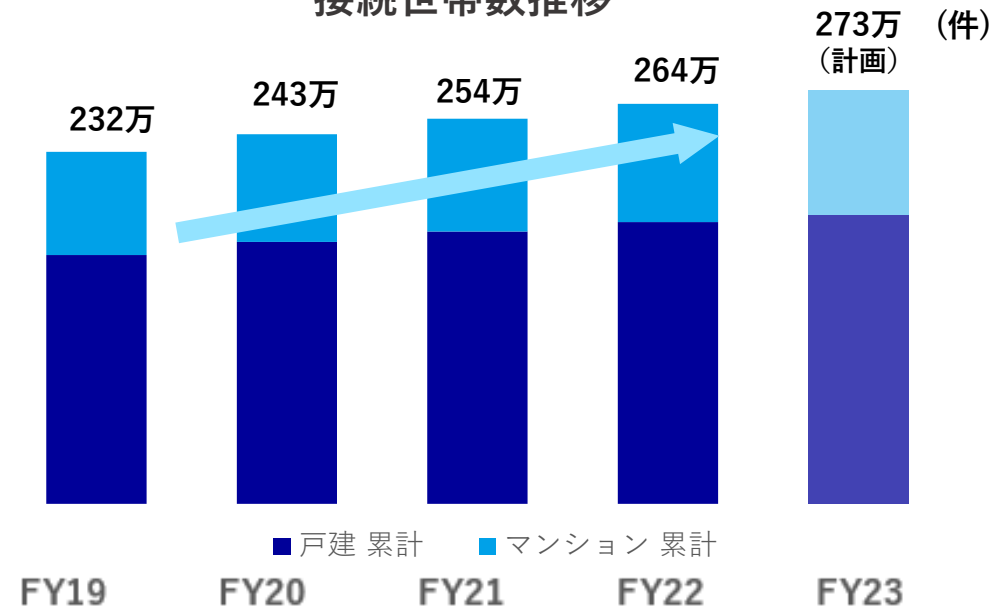
＊ 国勢調査世帯数より算出

費用：
通信事業者への回線料等

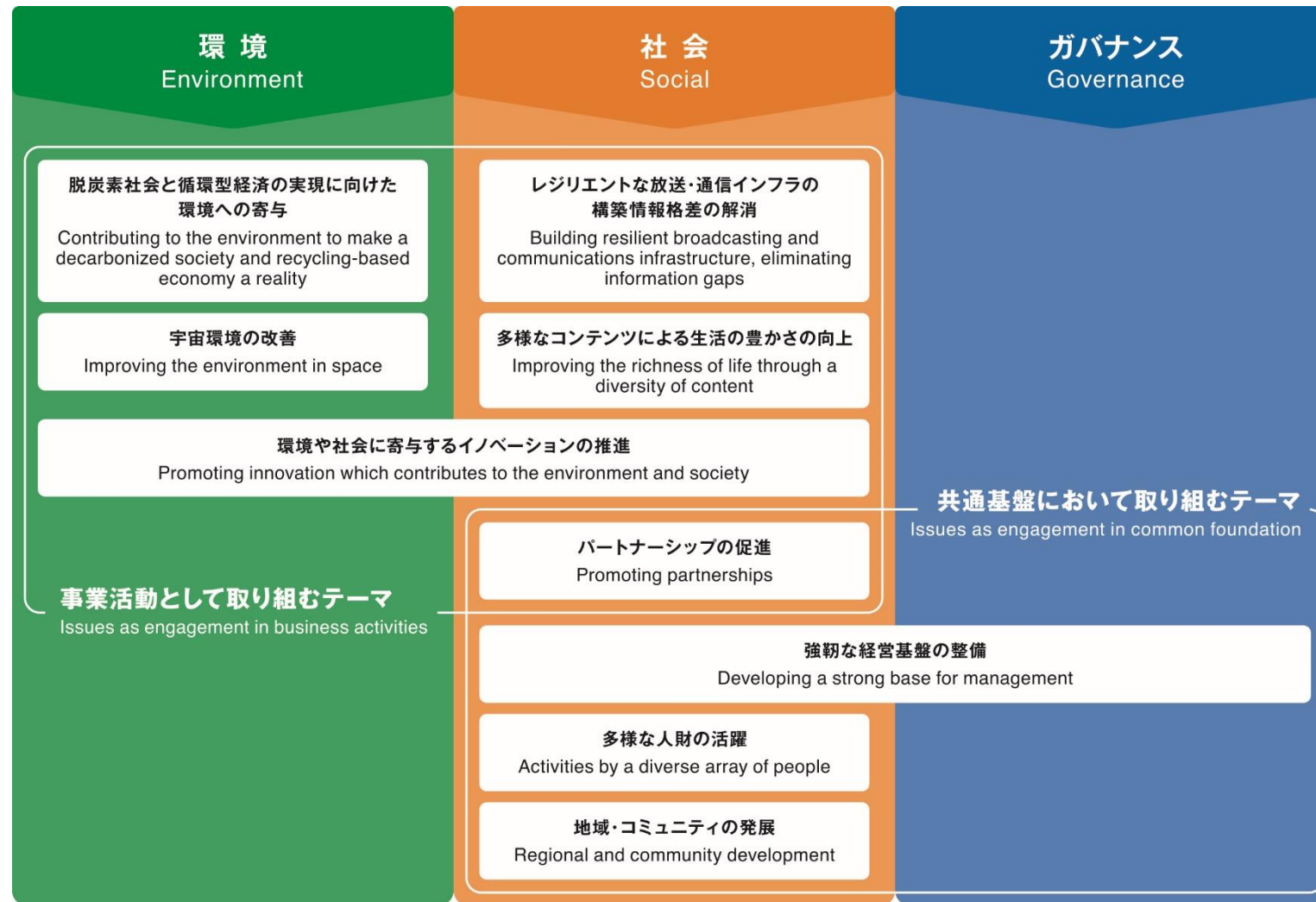
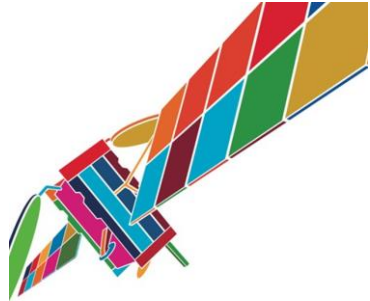
月額利用料：825円

テレビ視聴サービス330円/月（スカパーJSAT提供）
＋光回線テレビ伝送サービス495円/月（コラボ事業者提供）
※料金は戸建ての場合（税込）

接続世帯数推移



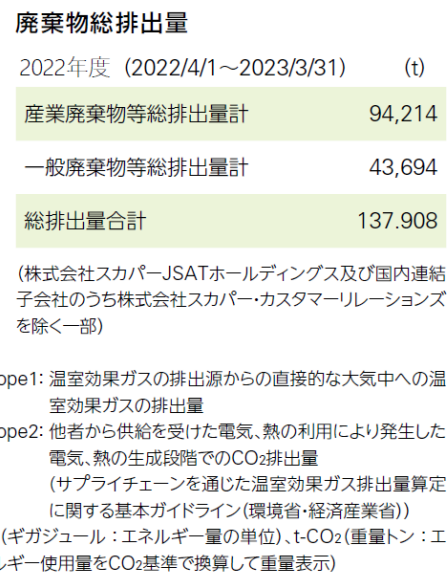
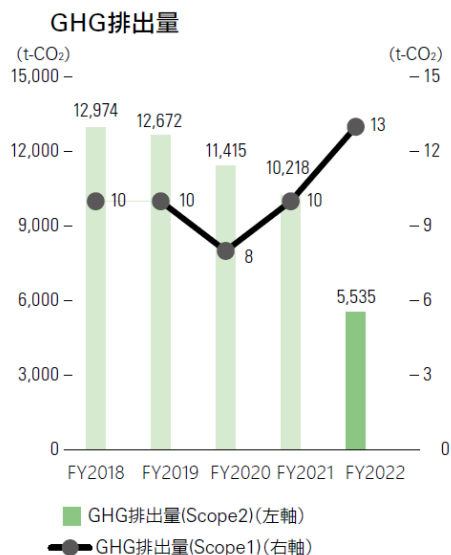
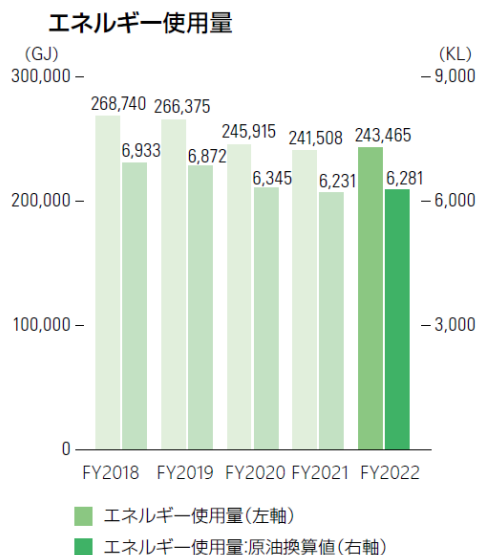
9つの重要課題（マテリアリティ）テーマ



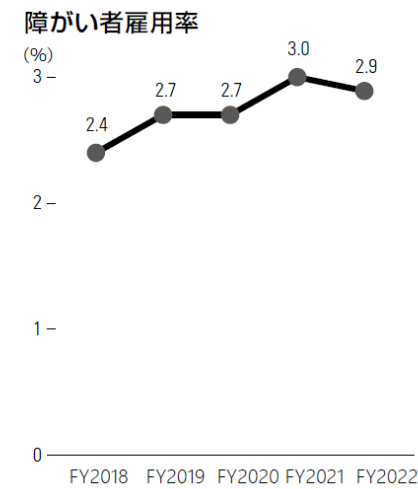
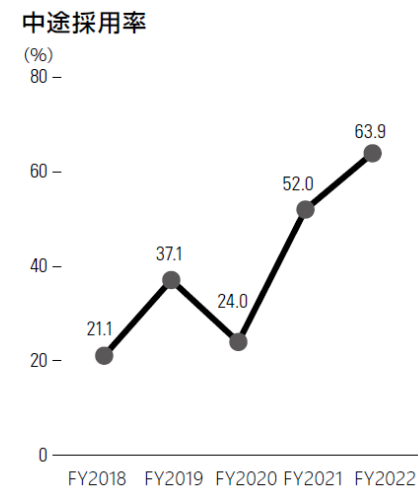
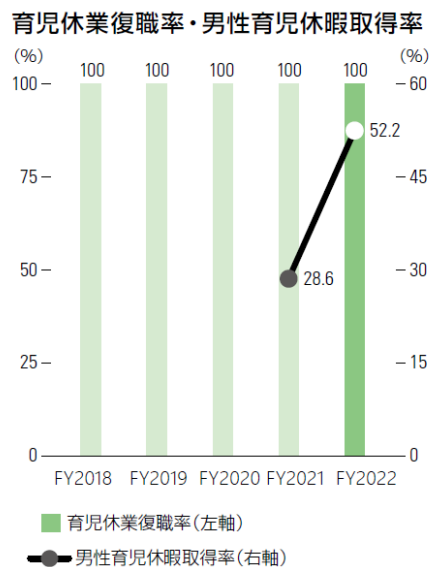
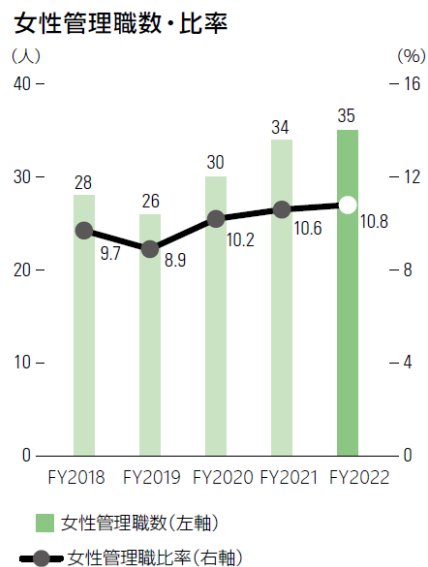
当社グループのサステナビリティ詳細は、こちらをご覧ください。
<https://www.skyperfectjsat.space/sustainability/>



ESGデータ ※スカパーJ S A T(株)単体での集計（廃棄物総排出量を除く）



2022年度実績の各ESGデータは
当社グループサイトにて公開予定しています。
<https://www.skyperfectjsat.space/sustainability/esg/>



Space for your Smile

不安が「安心」にかわる社会へ
不便が「快適」にかわる生活へ
好きが「大好き」にかわる人生へ

Space for your Smile には、私たちの目指す世界が描かれています。

宇宙も、空も、海も、陸も、家族が集うリビングも、ひとりの自由な場所も、

これらすべての Space が笑顔で満たされるように。

日常のちょっとした幸せから、まだ見ぬ未来の幸せまで、

ひとりひとりの明日がよりよい日になっていく、そんな世界を創りつづけます。



本資料に関するお問い合わせは、下記担当部までお願い致します。

株式会社スカパーJSATホールディングス

広報・IR部

E-Mail: ir@skyperfectjsat.co.jp

